

十両は麒麟王が全勝を守る

麒麟王が快調に白星を積み重ねて土つかずの9連勝。1敗で追う鹿麒麟も譲らず優勝の行方はここまでの勢いから見てほぼこの二人の争いになってきた。これを島内が2敗で追う展開。

麒麟王が庄巻の快進撃で優勝へまっしぐらだ。八日目2敗の生駒山を引き落としで下す。と九日目は幕内の玄武岩と対戦。ここは元関脇の玄武岩が相手とあって麒麟王の連勝もこのままかと思われたが、立ち合いからのど輪にきた玄武岩の攻めを凌いで叩き込み切った。

友砂親方もまさかこれほどの活躍を見せるとは思ってなかった様だが、ここまでできたからには全勝優勝も狙って欲しいところだ。まだ鹿麒麟との対戦を残しているだけに、優勝への力ぎを握る注目の一番となる。

その鹿麒麟は九日目に2敗の蛮国と対戦。鹿麒麟は新十両の時とは見違えるような左差感につながらている。

好調な蛮国に対してどういった相撲を取るかに注目されたが、やはり左をサツと差した鹿麒麟が全く危なげなく寄って最後は下手投げで1敗を守った。敗れた蛮国は3敗となって優勝争いからは脱落となった。



麒麟王○(下手投げ)●蛮国



麒麟王○(引き落とし)●生駒山

連敗スタートから7連勝で一躍優勝争いに加わってきたのが島内。先場所は左を差して出足がなく前に落ちる相撲で負けていたが、今場所は体を寄せて攻めているのが功を奏しているようだ。本人は全く優勝を意識していないというのだが、もし麒麟王が負けるようなことがあれば、展開的には面白くなりそう。

再入幕をかける黒雲海が西の富士、磯自慢の攻めを凌ぎ切って6勝目をあげ、まずは目標とする勝ち越しを決めた。昇進を確実にするには残り2番とも勝って8勝にしておきたいところ。他に上位で新入幕をかける西勢ノ里、真田丸、櫻吹雪あたりも残り2日目の相撲が大事になってくる。

中日を終えて5勝1敗と元氣な相撲をみせていた西旭は、勝ち越しを目的の前に七日目から3連敗。勝ち越しを意図したのかこれまでの軽快な相撲が見られなくなり、序盤の様相は相撲が取れれば容易に白星はついてくるはずだ。(勝間田)

幕下は逆馬山か玉乱か

幕下は四日目を開催。三日目まで3連勝同士の逆起と玉乱、逆馬山と自力岳の対戦が行われた。ともにどちらか同部屋の人2人が勝つてしまおうと千秋楽の全勝対決はなくなる心配もあつたが、逆馬山と玉乱がそれぞれ勝って決戦に駒を進めた。

親方の期待以上の活躍を見せる逆馬山が自力岳と対戦。立ち合いで自力岳は左を差す自依を割り寄り切りで完璧な相撲を見せた。

これで逆起も勝てば錦風親方もニンマリとなる。玉乱が倒しうまい攻めから押し倒しに破り同部屋決戦を阻止した。



玉乱○(押し倒し)●逆起



逆馬山○(寄り切り)●自力岳



西旭●(寄り切り)○麒麟王



磯自慢●(下手捻り)○黒雲海

三段目、序の口

果たして千秋楽に優勝を掴むのはどちらになるのか、対戦が待たれるところだ。そして熾烈となりそうな昇進争いは今のところ逆起が一番手だが、千秋楽に敗れるようだと微妙なところになりそう。筆頭の二人も勝つが必須となるだろう。ダブル昇進を目指しむ錦風親方にとっても逆馬山の優勝は外せないところとなる。(山里)

三段目は磐若と徳皇、序二段は紅の華と逆岩、序の口は飛葉と森倉が4連勝を果たした。三段目では磐若と巨鵬が先場所来の因縁の対決。先場所千秋楽に磐若に敗れて幕下昇進を逃した巨鵬、リベンジを目指したが今場所も再び討ちにあつてしまった。

一方の3勝対決は難敵強久根を倒して勢いを乗る徳皇が若今津を倒して4連勝とした。



巨鵬●(寄り切り)○磐若



徳皇○(寄り切り)●若今津



難波山○(寄り切り)●富士海

秋田部屋の難波山が富士の海を破り四日目にして勝ち越しを決めた。悲願の幕下昇格を確実にするためもう一つ白星を重ねたいところだ。

また、今場所秋田部屋の難波山が2勝2敗の五分に戻った。西二枚目と幕下が目の前だけに千秋楽に勝ち越して同僚難波山とともに昇進と目下へと秋田部屋初幕下へといきたいところだ。

序二段は紅の華が初土俵の先場所以来9連勝。先場所の序の口優勝に続き連覇を狙う。これに対するのが逆岩。兄弟子の磐若とともに二段制覇を目指す。



紅の華○(寄り切り)●紅大江

序の口では共に初土俵の飛葉と森倉の全勝決となる。鹿賀乃貝部屋の飛葉はウズベキスタン出身の変わり種。古都ヒヴァ出身のこのとでこの四股名が付けられた。顔つきもこれまでの鹿賀乃貝とは違いイカツイ感じだ。



飛葉○(寄り切り)●内藤



荒瀬●(寄り切り)○逆岩



森倉○(寄り切り)●大友



千曲海○(浴せ倒し)●徳ノ虎

(鹿賀乃)